

Opening Event 11/10

出展作家 清田による 青い家ギャラリートーク

青い家内の展示作品を巡りながら作品と制作意図についてしゃべります。

日時：11月10日(日) 11:00～(1時間ほど)

場所：AIR 南山城村「青い家」

参加費：無料

harmony 卵

村で暮らす7人の
おばちゃん「harmony 卵」が
ランチを担当します。



※材料がなくなり次第終了いたします。
※写真はイメージです。

村の猟師さんが仕留めた鹿を使った「シカライス」と
村野菜たっぷりの「やさいスープ」でおもてなし。
お楽しみにお越しくださいませ。

アクセス

◎原則として「車」でのご来場をお願いします。

駐車場はギャラリー本館前にございます。
そちらをご利用ください。

■お車でお越しの場合

- 大阪・奈良方面より：369号線→4号線、途中左折して82号線
- 京都・三重方面より：163号線→82号線
- 名阪国道より：名阪国道五月橋IC→4号線→82号線

■公共機関でお越しの場合

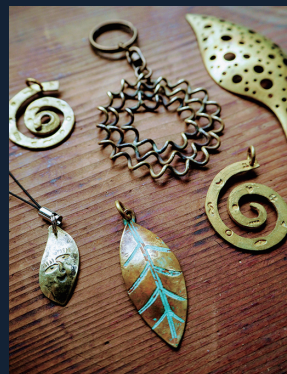
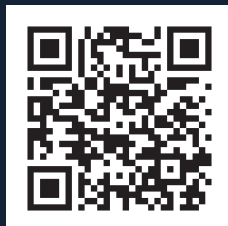
- 大阪方面より
加茂駅(JR大和路快速)で乗り換え、月ヶ瀬口駅(関西本線)下車
- 京都方面より
木津駅(JRみやこ路快速)で乗り換え、加茂駅から同上

Work Shop 11/16 11/17

「アクセサリ作り」

ピアス、ペンダントトップ、キーホルダ等の
アクセサリ作り。

必ず下記QRより
事前申込みを
お願いいたします。

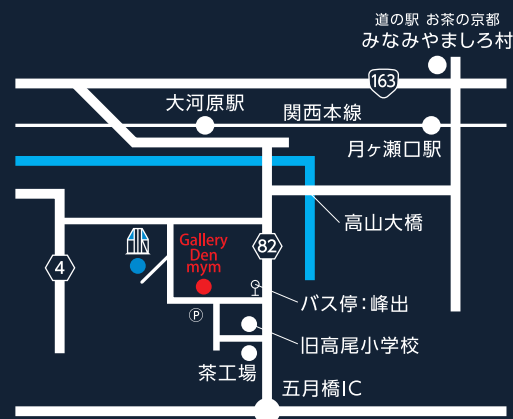


日時：11月16日(土)・17日(日)13:00～15:00

場所：本館

講師：志村 高弘

参加費：500円(材料費)



高山大河原線村営バスをご利用ください。

月ヶ瀬口駅で下車してください。

行き
月ヶ瀬口駅前発 (所要時間約20分)
10:00、13:15、15:45
峰出で下車してください。

帰り
峰出發 (所要時間約20分)
17:19、18:19
月ヶ瀬口駅前前で下車してください。



Gallery Den mym

志村 高弘展

Takahiro Shimura



AIR 南山城村

清田 泰寛展

はじめてのマグマ結び
Yasuhiro Kiyota

2019.11.10 sun ~ 11.23 sat

12:00 ~ 17:00 初日のみ11:00 ~
毎週 水・木曜日は、休廊日とさせていただきます。

Gallery Den mym
ギャラリーデン南山城村

主催 / Gallery Den mym
後援 / 南山城村

京都府相楽郡南山城村高尾下廣見35 TEL 0743-94-0012 定休日:水・木曜日

E-mail: gdmym@nifty.com URL: galleryden-mym.com

Gallery Den mym
ギャラリーデン南山城村

AIR 南山城村
Artist In Residence 青い家



志村 高弘
Takahiro Shimura

PROFILE

1969 三重県松阪市生まれ
1991 金沢美術工芸大学 工芸デザイン卒業
1993 金沢美術工芸大学大学院 産業デザイン修了

■主な個展

- 1997 ギャラリーマロニエ (京都)
- 1998 志摩画廊 (京都)
- 1999 ギャラリーOct (京都)
- X:PORT/axis (東京)
- 2000 Gallery Den (大阪)
- ワコール銀座アートスペース (東京)
- 2002 Gallery Den (大阪)
- 2003 楓ギャラリー (大阪)
- ワコール銀座アートスペース (東京)
- 祇をん小西 (京都)
- 2004 堤側庵 (三重)
- 2007 Gallery Den (大阪)
- 2009 松阪市文化財センター (三重)
- 金沢市民芸術村 (石川)
- 三重画廊 (三重)
- 2010 ギャラリーマロニエ (京都)
- 2kw gallery (大阪)
- 2011 Watanabe fine art gallery (大阪)
- 2013 祇をん小西 (京都)
- 2015 EN陶REZ (神戸)
- 堤側庵 (三重)

■主な公募展

- 1995 国際丹南アートフェスティバル'95《武生》優秀賞 (福井県武生市)
- 1997 第26回現代日本美術展 入選 (東京都美術館、京都市美術館)
- 1998 第27回現代日本美術展 入選 (東京都美術館、京都市美術館)
- 1999 第28回現代日本美術展 入選 (東京都美術館、京都市美術館)



収穫の秋

樹々に囲まれた山の暮らし。

嘗て棟梁だった近所のおっちゃんから譲り受けた鑿^{のみ}。

偶然にも木を彫る準備が整った。

長年続けてきた鉄板の叩き出し、

にわかにはじめて丸太からの削り出し、

其々造形へのアプローチの違いがとても新鮮に感じた。

また同時に改めて鉄の素直さを確認し、

木の奥深さを知ることができたレイワガンネン収穫の秋。

有難き出会いに感謝です。



清田 泰寛
Yasuhiro Kiyota

PROFILE

1985 大阪府出身
2011 京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了

■主な個展

- 2009 閉じサーキット (Antenna AAS / 京都)
- 2014 雷雷抱雷雷 (京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA / 京都)
- 2017 Melody Buff (ホテル アンテルーム 京都 GALLERY9.5 / 京都)
- 2018 Melody Date (波止場 / 愛知)

■主なグループ展

- 2014 ART COURT FRONTIER 2014 #12 (アートコートギャラリー / 大阪)
- 2014 トンネルビジョン (KUNST ARZT / 京都)
- 2014 架設 第二期 (京都精華大学 / 京都)
- 2015 still moving @KCUA (京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA / 京都)
- 未来の途中のリズム-美術・工芸・デザインの鋭い10人展 (京都工芸繊維大学美術工芸資料館 / 京都)
- 2016 絵と図 清田泰寛と神馬啓佑のドローイング展 (成安造形大学 / 滋賀)
- 2016 肉とヴェール 清田泰寛・神馬啓佑2人展 (京都芸術センター / 京都)
- 2017 MEDIUM FREE MAY THE ART BE WITH YOU (YEBISU ART LABO / 愛知)
- 2017 未来の途中の、途中の部分 (京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA / 京都)
- 2017 場 (愛知県美術館 ギャラリーJ室 / 愛知)
- 2019 Kyoto Art for Tomorrow 2019 -京都市府新鋭選抜展- (京都文化博物館 / 京都)

硬直と躍動

描き始めて手数が増え、何かを描いたオブジェクトが画面を埋めていく。そうするととどどん絵の方向は定まるのだが、同時に自らの描く行為が窒息していくような感覚に陥りそうにもなる。次第に画面も描く行為も「これ以上手を加えたくないな」と硬直的になり、躍動しづらくなる。

もともと絵については、紋切り型の、シルエットのはっきりした対称性のある図が好みだった。画面に残したいオブジェクトもそれにならって生み出すことが多く、かつては硬直性が頂点に達した状態を敢えて前面に押し出していたこともあった。しかし最近になるほど、硬直状態で作品を完成とすることに満足できなくなっていた。描く行為が画面上で生っぽく残る魅力に気付き始めたのもあって、その生っぽさを全体の構成に組み込むことで硬直的になった絵をさらに揺り動かし、躍動させられるのではないかと考えるようになった。

油彩は硬直性を解消するのに最も重要な画材だと考えている。キャンバス上に描いた生っぽさがはまそのまま残るのに加え、一度描いても、後から融かしたり拭き取ったりすることが比較的容易なのである。これらの性質は、描いてはさらに上から描きつぶすという、絵を揺り動かす上での核となる行為と親和性が高い。それを軸として、アクリル絵具やペイントマーカー等、平坦な表面効果が出やすい水系の画材も油彩の対比として画面に組み込んでいく。性質の違いを利用すると、例えばアクリル絵具で描いて、乾燥後に上から油彩を描き、その箇所を揮発油で油彩のみ溶かし去るという処理もできる。これによって描く行為が一方向に加算的なだけだったのが減算的な手法も加えられるようになる。そうすると画面内の絵の層が前後で行き来して、効果的に硬直性を破り、躍動を引き起こせるのではないかと期待している。しかしそれが作品内でうまく機能したことは、まだない。